



これまでの日中の暑さが嘘のように、朝夕の冷たさや寒さを感じるようになりました。校舎の周りも少しずつ紅葉が始まり、様々な彩りに覆われるのは、もうすぐのようです。

11月は旧暦で霜が降りる月、霜月と呼ばれています。11月8日（日）の立冬を迎えると、冬将軍の到来も間近です。日の暮れるのは確実に早くなり、昼夜の寒暖の差が激しく、体調を崩しやすくなりますが、風邪などひかれぬよう、お身体には十分気をつけてお過ごしください。

素敵な会場で、素晴らしい文化祭でした

先週の23日（金）には、坂町のサンスターホールで合唱祭を開催しました。素晴らしい施設の中、多くの保護者の皆さまにお越し頂き、生徒達の発表をご覧頂いたこと、深く感謝申し上げます。

合唱の部では、これまでの練習の成果を発揮して、どの学級も素敵な歌声を響かせていました。1年生は1年生らしく元気な歌声、2年生は学年の成長を見ることが出来る男女の協調、そして3年生の発表には、これまでの努力の過程を思い起こさせる、完成された見事な合唱を聴かせてもらい、感動で目頭が熱くなりました。この合唱を作り出した全ての皆さんに感謝します。

また、ギターマンドリン部と吹奏楽部は日頃の活動の成果が凝縮された素晴らしい演奏で、大きな感動を与えてくれました。

26日（月）に行われた展示の部では、特別支援学級や文化部、美術科の創意工夫された作品が展示され、これまでの取組の成果を、一部ではありますが見て回る事ができました。

後期が始まって約2週間が経過しますが、生徒たちは目的意識をもち、落ち着いた学校生活を送っています。これからも「矢野中スタンダード」の継続を図りたいと思います。



秋の夜長は読書を楽しもう

さて、秋も深まり長い夜を持て余すようになりました。昔から「秋の夜長は読書しよう」という事がいわれています。そもそも「読書の秋」という言葉が、使われるようになった由来をご存知ですか？中国・唐代の文人である韓愈（かんゆ）が残した詩の中に、「燈火（とうか）親しむべし」という一節があります。その意味は、「秋になると涼しさが気持ち良く感じられ、あかり（燈火）になじむようになる」。つまり、秋は読書に一番適した季節であるということを表現したこの言葉が、読書の秋の由来とされています。また、秋は気温が14度～16度と脳の活動に最適な温度になるため、読書や勉強に没頭しやすい時期となるそうです。

読書は、ものの見方や価値観を形成し、自分自身の世界を作っていく、つまり、自己形成にとって強力な道標となるものです。さらに、読書によりコミュニケーション能力が格段にアップします。変化の激しいこれからの社会を生きていく上で、もっとも必要とされる重要な力を育むため、この秋、しっかりと読書を楽しみましょう。